

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年12月5日更新

事務事業名	工業用水道事業維持管理事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	6	産業の健康		所属部	水道局	課長名 岡田 光弘
	施策	28	企業誘致の促進と働く場の確保		所属課	上下水道課	担当者名 吉田 健悟
	施策の柱	74	企業誘致の促進		所属班	管理工務班	(内線) 1157
予算科目	会計企業	款	項	目	事業連番	根拠法令	地方公営企業法、市工業用水道事業給水条例、同施行規則ほか
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	合志市と菊陽町にまたがるセミコンテックパーク内の事業所等に対し、工業用に使用する水を配水する工業用水道(工場などの事業所に人体と直接接しない目的で用いる雑用水を供給する水道)の原水・配水施設(配水池及び配水ポンプ施設、高架水槽、原水(取水)施設)等を運転し、維持管理する事業である。 熊本県による内陸型工業団地として整備されたセミコンテックパーク(合志市及び菊陽町)及び隣接して拡張された原水工業団地(菊陽町)の工業用水道の原水・配水施設等を適切に運転及び維持管理するため、平成10年度から事業を開始した。 工業用水道の原水・配水施設等は計画的に整備されており、企業等の目的に応じて使用できるよう塩素による消毒を行わない工業用水を配水しており、現在8社に供給している。 菊陽町とは、事務委託規約を締結(議決)しており、必要に応じて費用負担についてなど協議を行う必要がある。平成25年度に、菊陽町から協議があった原水地区道路付替えに伴う配水管の移設工事を実施した。
【業務の流れ】	セミコンテックパーク内工業用水道の原水・配水施設等(配水池、高架水槽、配水ポンプ施設、水源地施設)の定期管理(維持管理等の業務委託に関する契約事務、業務立会、結果報告、改善事務等)、②同原水・配水施設等に係る電気設備の保安管理(業務委託に関する契約事務、監督、指導ほか)、③同原水・配水施設等に係る水質検査業務(契約事務等)、④故障等が生じた場合の修繕対応事務(現状の把握、故障原因の調査、専門業者の手配、改善策の検討、契約事務、業務立会、結果確認・検査等)、⑤必要に応じて、菊陽町との協議
【主な予算費目】	工業用水道事業会計 第1款:工業用水道事業費用 第1項:営業費用 目:原水及び浄水費 全節(委託料、修繕費、動力費)
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO)	29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
適切に運転及び維持管理を行い、定期的水質検査業務を実施した。	工業用水道の原水・配水施設等の適切な維持管理を行う。 本年度は、機器の大きな取替え・更新の予定はない。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 原水・配水施設等の点検回数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
工業用水道を利用する事業所	(単位) 箇所
	→ ア: 原水・配水施設数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
原水・配水施設等に起因する断水をせずに配水できる。	(単位) 件
	→ ア: 原水・配水施設に起因する断水件数
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠	
原水・配水施設に起因する断水件数をみることで、工業用水道を利用する事業所に安定的に用水を配水する原水・配水施設等が適切に維持管理できたかを判断できると考えた。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移	単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	29年度目標(当初予算)	30年度予定	31年度見込	32年度見込	
① 活動指標	ア 回	0	20	20	20	20	20	20	20	
② 対象指標	ア 箇所	0	3	3	3	3	3	3	3	
③ 成果指標	ア 件	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円		8,704	10,356	9,082	11,360	11,796	11,360
		繰入金	千円							
	一般財源	(A) 事業費計	千円	0	8,704	10,356	9,082	11,360	11,796	11,360
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		人件費	人	4	5	5	5	5	0	0
		延べ業務時間	時間	380	390	420	340	420	0	0
(B) 人件費計	千円	1,513	1,448	1,673	0	1,673	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,513	10,152	12,029	9,082	13,033	11,796	11,360		

事務事業名	工業用水道事業維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 原水・配水施設等に係る大規模な破損や事故等はなく、断水せずに済み、目標を達成できた。
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 原水・配水施設等の破損や事故等の予測は難しいが、たとえ発生しても、適切かつ緊急手配で断水することなく補修する方法等に取り組むことで、目標を達成する見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 原水・配水施設等に起因する断水を起こさないようにすることが成果であり、現状を維持する。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業として、セミコンテクノパーク内原水・配水施設維持管理事業があるが、対象が異なるため統廃合はできない。ただし、業務の実施に当たっては連携して取り組んでいる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の事業費で運転及び維持管理を行っており、削減の余地はない。今後老朽化による劣化が進めば、事業費の増加の可能性がある。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人員で、しかも兼務で運転及び維持管理に当たっており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 費用負担を行っている全ての工業用水道使用者に受益機会があり、公平・公正である。ただし、経営状況によっては、市負担を求めることもあるため、経費節減に努める必要がある。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 現時点では市に代わる事業者がないので、移行できない。将来的には、業務を第三者に委託する方法も考えられるが、先進事例を研究し信頼性が確実となる実績をさぐるなど、さらに検討が必要である。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

原水・配水施設等の破損や事故等につながる大きな災害等もなく、適切な維持管理を行うことにより、目標を達成することができた。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)  
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)  
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果  
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策